



検索の 豆知識

Vol.1~17
- 総集編 -



もっと知ってよ！ 芸術文化情報センターのレファレンス(調査)サービス

というスタッフの願いから、「検索の豆知識」Vol.1が発行されたのが2006年。新しく開始したサービスやデータベース、アートの研究に役立つ事典など便利なツールを紹介してVol.17までできました。

今回は「おすすめレファレンスブック」「プチレファレンス」「データベース紹介」の三つのコーナーから、これまで特に反響のあった「豆知識」をスタッフが厳選。最新情報を追加してダイジェスト版でお届けします！

レファレンスサービスとは？

みなさんからの求めに応じて図書館員が資料の調査・検索（検索方法）、文献提供などのサービスを行うこと。参考業務ともいう。レファレンスカウンターはその窓口です。



おすすめレファレンスブック



プチレファレンス



データベース紹介



芸術文化情報センター
Art and Culture Information Center

📖 おすすめレファレンスブック

館内の参考資料室にはアートや歴史など専門分野に関連した便利な辞書類がたくさんあります。辞書ではインターネットよりも信頼性のある情報が調べられますが、その使い方やメリットを知らないとなかなかとつきにくいものかも知れません。このコーナーでは、本棚の前をウロウロするより「まずはこの一冊！」といったお薦めの辞書を紹介しています。

「嵐」という題でどんな絵画があるんだろう？ インターネットで画像検索してみたけど、どの作品なのかわからない…

そんな時はコレ！



『西洋美術作品レファレンス事典 絵画篇 19世紀中葉以前』

日外アソシエーツ
702.3/SE
所在：参考資料室

数多くある美術全集の中で、自分が探している作品がどこに掲載されているのか、探すのに戸惑った経験はありませんか？ そんなときに役立つのが、この『西洋美術作品レファレンス事典』です。30種、276冊の美術全集から、ある作家のとある作品がどの全集の何巻に収録されているかを調べることができます。作家名(カタカナ、原綴)、作品タイトル(邦題、原題)の索引があります。

例：ラ・トゥールの『いかさま師』という絵を見たい。

→作家名も作品名もわかっているので、見つけるのは簡単ですね。

小学館から1995年に出版された「世界美術大全集17」の図13に掲載されていることがわかります。あとはOPACで、この全集が情報センターにあるかどうか調べてみましょう。

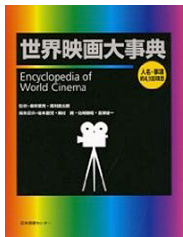
情報センターには同シリーズで他に以下の15冊があります。是非ご利用ください。

	請求記号	資料ID
東洋美術作品レファレンス事典	702.2/TO	100119466
日本美術作品レファレンス事典	702.1/NI	000027196
絵画篇 浮世絵	702.1/NI	000053591
絵画篇 近世以前	702.1/NI	100111232
絵画篇 近世以前・浮世絵・近現代	702.1/NI	000027197
絵画篇 近現代	702.1/NI	000061744
彫刻篇	702.1/NI	100125723
建造物篇	702.1/NI	100102556
西洋美術作品レファレンス事典	702.3/SE	100107784
絵画篇 19世紀印象派以降	702.3/SE	100125730
版画・彫刻・工芸・建造物篇	702.3/SE	100125731
西洋絵画名作レファレンス事典	723/SE/1	100111231
1	723/SE/2	100114404
2	703.1/NI	100114405
美術作品レファレンス事典	703.1/NI	100114405
人物・肖像篇	703.1/NI	100123339
先史・古代美術	703.1/NI	
人物・肖像篇 2 神話・宗教	718.031/BU	
仏像レファレンス事典		

※いずれも所在：参考資料室

授業で聞いた専門用語が気になる。そういえば、映画の専門用語って海外ではどんな呼び方をするんだろう…

そんな時はコレ！



『世界映画大事典』

岩本憲児〔ほか〕編集
委員 日本図書センター
778.033/SE
所在：参考資料室

映画に触れる機会が多い方ならば、この事典の素晴らしさが理解できるかと思われます。映画批評の重鎮、岩本憲児が監修し、執筆には映画研究者の村山匡一郎、西嶋憲生をはじめ、フィルムセンターの現役研究員や立命館大学映像学部准教授の川村健一郎…という面々。「本編」と「資料編」の2部構成で、本編は映画史や映画理論に関する記述を内容とし、人物、組織、団体、企業、用語などの項目を五十音順に配列。項目数約4,100。資料編は本編と呼応し、総合的な理解を助ける年表、図版、製作会社の系譜など7種の資料を収載！ゴダールからザ・ドリフターズまで、松本俊夫から伊藤高志まで、専門用語のパン・フォーカスやテクニカラーまでもが正確な情報として「どうぞ！」とばかりに掲載されています。読めば読むほど、個人的に購入したくなる事典です。(¥29,400)行定勲や浅野忠信といった近年活躍される監督や俳優も掲載されています。「この事典ができるまでに、いったいどれほどの膨大な労力が注ぎ込まれたのだろうか…」など思案しながら、この事典から知識を得て、映画研究・制作にどうぞお役立ててください。

70年前の雑誌には浮世絵や仏像についてどんな論文が載っていたのかな？ データベースで検索しても、そんな古い情報はヒットしないなあ…

そんな時はコレ！



『日本・東洋古美術文献目録： 昭和11年～40年定期刊行物所載』

東京国立文化財研究所美術部編
702.1/NI
所在：参考資料室

『日本東洋古美術文献目録： 一九六六～二〇〇〇年定期刊行物所載』

東京文化財研究所美術部編 中央公論美術出版
703.1/T
所在：参考資料室

本書は日本および東洋の古美術について、1936～1965年および1966～2000年に日本国内で発行された定期刊行物に掲載され、日本語で書かれた文献を採録した文献目録です。「古美術」とはいうもののその扱う範囲は幅広く、美術や歴史に関する情報処理システム、文化財保護や博物館学、文化史、展覧会も含み、美術全般を網羅した構成となっています。CiNiiやMAGAZINEPLUSといった雑誌記事索引のデータベースではヒットしない文献が多数掲載されているのも特徴です。各項目は分野ごとに分かれているため、美術、歴史の先行研究を調べるにはうってつけの目録です。あなたの論文テーマに関する文献がまとまって挙げられている可能性もありますよ。

Q プチレファレンス

カウンターでよくある質問について回答とともに紹介するコーナーです。本学は芸術系の大学であるため、最も多く寄せられるのがビジュアル情報に関する問い合わせ。「できるだけ大きくて鮮明な図版を探しているのですが…」といったリクエストに迅速に答えられるよう、カウンタースタッフも日々資料の探索スキルを磨いています！

論文を書く前に、自分と同じ研究テーマの人がいないか知りたい！

文献収集方法の基本

論文を書くときには、テーマに関する文献入手が必須です。今回はその方法についてご紹介します。

さがす 今回は、伊藤若冲についての文献を探してみましょ。テーマについて情報が少ないときは、百科事典を引いてみます。データベースJapanKnowledgeで日本大百科全書を検索すると、小林忠氏による説明文と、参考文献として辻惟雄著『若冲』(美術出版社)が挙げられていました。百科事典で紹介されている文献は基本文献と言えます。冊子の百科事典を調べる際は、索引から引くと関連する重要な項目も一度に調べることができます。次に、論文データベースCiNiiで、論文名：若冲、著者名：小林忠または辻惟雄に設定して検索してみます。それぞれ9件の文献がヒットしました。これらの文献を集め、末尾の参考文献リストから新たな文献を探す方法もあります。検索する場合のキーワードは伊藤若冲ではなく若冲としたほうがより多くの結果が出てきます。

えらぶ 参考文献は網羅的に集めましょ、と言われるのですが、たくさん文献が出てきたとき、何を基準に選択すればよいでしょうか。例で挙げたように百科事典に参考文献として挙げられているものや事典の項目執筆者の文献、他の論文に引用されている回数が多いものは重要な文献といえます。CiNiiでは検索結果から他の論文への引用件数を調べる機能もあります。また文献の刊行年や掲載されている媒体(学協会が発行しているものか、一般の雑誌かなど)も参考になります。

あつめる 次は選んだ文献を収集する段階です。CiNiiで検索した論文に本文へのリンクがあれば簡単に入手できます。また、大学が発行している紀要であれば、その大学のホームページで本文を公開していることがあります。本学の所蔵状況はOPACで雑誌名と巻号(雑誌ならば必須)から確認できます。本学にない場合は他大学でどこが持っているかを調べます。他大学の所蔵はデータベースWebcatPlusで検索すると良いでしょう。他大学の資料を利用するには他館閲覧(訪問利用)や文献複写(コピーの取り寄せ)といった方法があります。

気になるあの人の顔がみたい!!



○○の肖像画や顔写真を探している



『日本肖像大事典』
山口昌男監修
1997年
281/Y/1-3
所在：参考資料室

例えば、サザエさんという漫画は知っているけど原作者の長谷川町子さんの顔を知らないから見たい!というような場合、ひよっとしたら『○○人名辞典』という類を検索してみた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。実は『人名辞典』の大半には肖像画や顔写真がついておらず、生没年表記や解説文が記載されているだけで、載っていたとしてもほんのわずかだったりします。では、どうしたら?もちろんネット上で検索!という手もありますが、すっごく簡単なレファレンスブック(参考図書)があります。『日本肖像大事典』。これは上、中、下巻にわかれていて五十音順に構成されているため簡単に検索できちゃいます。肖像画や顔写真をお探しの際には利用してみてください。

また、ネット上でも肖像画を見ることができるデータベースがあります。

データベース	特徴	URL
国文学研究資料館 歴史人物画像(古典キャラクター) データベース	主に明治以前の古典籍で描かれていた3100名もの人物画像が検索できる。	http://base1.nijl.ac.jp/~rekijin/
東京大学史料編纂所 史料編纂所所蔵肖像画模本データベース	史料編纂所所蔵の肖像画模本を身分・性別・生没年からも検索できるユニークなデータベース。	http://www.hi-u-tokyo.ac.jp/ships/hipscontroller
日本近代文学館 資料写真検索	日本近代文学館が所蔵する作家の肖像が閲覧できる。	http://webopac.bungakukan.or.jp/pic/
国立国会図書館 近代日本人の肖像	近代日本の形成に影響を及ぼした政治家、軍人、学者、芸術家など約350名の略歴付き肖像写真のデータベース。	http://www.ndl.go.jp/portrait/

好きな作家の作品を今すぐみたい!

展覧会図録とカタログ・レゾネ



Online Picasso Project

<http://picasso.csd.tamu.edu/>

※米国・サムヒューストン州立大学と
テキサスA&M大学による共同制作

「ベルギーの画家の作風を図版を見て確認したい」「ピカソの晩年の作品の情報を調べたい」…芸術文化情報センターが受け付けるレファレンスには、こういった美術作品に関する質問がよくあります。その際、主にご案内するのが展覧会図録とカタログ・レゾネ(作品目録)です。今回はこれらの資料の特徴についてご紹介します。

当センターには展覧会図録のみをまとめた書架があります。作品の傾向や流派、作家の国籍ごとに様々な作品を同時に見たいときはこちらが便利です。ベルギーの作家に焦点をあてた企画展の図録を開けば、マグリットやアンソールの作品を一度に俯瞰することができます。

一方、カタログ・レゾネとは、一作家の作品の図版を時系列順に並べ、題名・サイズ・技法・来歴・所蔵者等のデータを記録し、目録化したものです。画集や展覧会図録が作品を鑑賞するための資料だとすれば、カタログ・レゾネは作品を調べるための資料といえるでしょう。著名な作家の全作品総目録として、作家の没後に出版されるのが一般的です。一作家の作風の変遷を図版で確認したい時は、こちらがおすすです。作品数の多い作家ほどレゾネの情報量も膨大になるわけですが、多作家として有名なピカソにいたってはなんと「Online Picasso Project」というweb版のカタログ・レゾネが作成されており、絵画のほか、陶器、版画など種別ごとの検索ができるようになっています。一度ご覧あれ。

データベース紹介

このコーナーでは芸術文化情報センターが契約している商用データベースのほか、インターネットでフリーアクセス可能なデータベースも含めて、調べものに便利な検索ツールを紹介しています。近年は情報を「探す」だけの機能だけでなく、情報をすぐに「見る・読む」ことができるデータベースの人気が高まっています。今回の特集でご紹介するのは全て「見る・読む」が可能なものばかりです。一度お試しあれ。

国立国会図書館の所蔵図書をデジタル画像で閲覧可能

近代デジタルライブラリー

<http://kindai.ndl.go.jp/>

国立国会図書館が運営するホームページに「電子図書館」という項目があります。今回はその中にある『近代デジタルライブラリー』というサービスをご紹介します。その名の通り、国立国会図書館が所蔵している図書を電子化し、デジタル画像にしているため、わざわざ国立国会図書館まで行かなくても見たい資料の本文がWeb上でご覧いただけます。著作権処理を行った図書を対象にし、主に明治・大正期刊行図書の書誌と目次を公開しています。



主な特徴

古い資料を自宅でも閲覧することが出来る!	古い資料や貴重な資料は図書館でしか閲覧することが出来ないという問題点を、このサービスにより解消しました。
タイトルだけでなく目次からも検索可能!	キーワードを入力すると、タイトルから検索するだけでなく目次からも検索可能なため、検索結果の幅が広がります。
どこからでも閲覧可能!	契約データベースとは違い、インターネットに接続されたパソコンがあれば、どなたでもどこからでも閲覧することが出来ます。
印刷・ダウンロードも出来る!	資料は著作権処理を行っているため、検索結果を印刷、またはダウンロードすることが出来ます。

デザイン、建築、ビジネス・・・業界の最新の動向がわかる!!

日経BP記事検索サービス

<http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>

2009年4月から当センターに新規導入された日経BP記事検索サービスは、日経BP社が発行する雑誌のバックナンバーの記事を検索・閲覧できるデータベースです。雑誌タイトルの一例としては『日経デザイン』『日経アーキテクチュア』『日経キッズプラス』『日経ビジネス』などがあり、サービス、建設およびビジネス関連といった多岐にわたる分野をカバーしています。記事はテキスト版だけでなくPDF版でも提供されており、雑誌そのものを開いた感覚で記事を読むことができます。記事の検索は雑誌の表紙や会社名から探すことも可能です。また、トップ画面にある“パソコン・スキルアップ講座”ではわかるようではないWordやExcel、メールなどの使い方が具体的に説明されており、レポート作成時の強い味方になることでしょう。



全国の大学の研究論文が読める

学術機関リポジトリポータル「JAIRO」

<http://jairo.nii.ac.jp/>

学術機関リポジトリポータルJAIRO(呼称: ジャイロ)は日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書など)を横断的に検索できるサービスです。なんだか難しいことばが並んでいますよね。これまで発行してきた「検索の豆知識」を読んでくださっている方なら何度も出てきたことばなのでご存じかと思いますが、学術機関とは、すべての大学や研究機関のこと。機関リポジトリとは大学・研究機関が、所属する研究者の論文を集めて主に図書館のホームページ上で公開しているもの。要は『インターネットができる環境であれば、どこからでも論文が読める、大変便利なもの』ということです! 使い方も簡単で、簡易検索と詳細検索があり、簡易検索は検索したいキーワードを入力し、検索ボタンをクリックすると登録されているコンテンツ情報全体を検索することができます。例えば「サザエさん」というキーワードで検索をしてみます。すると、『サザエさん』に見られる呼びかけ語という論文が1件ヒットしました。検索結果には、この論文が掲載されている雑誌のタイトル、号数、ページ、発行年など、様々な情報を得ることができます。論文タイトルをクリックすると、さらに詳細な情報が得られる上に、本文が読めるものもあります。また、「京都」というキーワードで検索をしてみると、検索結果が83,115件ヒットしました。そのうち本文が読めるものだけを検索してみると71,334件。およそ9割のものが本文まで読めてしまう大変便利なサービスです。



詳細検索では、キーワード、タイトル、著者名、雑誌名から検索することができますし、資料の種別を指定しての検索や、機関を指定して検索することもできて大変便利です。是非一度お試しください。(2010/5/12現在)